

楽友会通信 No. 75 2018/12/15 指笛楽友会発行

b ♪♪♪♪♪♪ ♯ ♪♪♪♪♪♪ b ♪♪♪♪♪♪ ♯ ♪♪♪♪♪♪

*** 目次 ***

		- 頁 -
1. 田村大三 指笛音楽 84 周年記念 指笛コンサート開催	有吉憲行	1
2. 指笛・発表会のプログラム(別紙)	有吉憲行	4
3. ジャズの街 ニューオリンズ	塩谷彰宏	4
4. 84 年前の『都新聞』切抜き	有吉憲行	6
5. オーストリア 旅行記	牛山宏隆	8
6. 事務局からのお知らせ・総会出欠は同封葉書にてお知らせください	事務局	9

1. 田村大三 指笛音楽 84 周年記念 指笛コンサート開催

有吉 憲行

練馬文化センター小ホールにおいて、11月24日(土)13時に開演された 田村大三指笛音楽 84 周年記念「指笛コンサート」が無事に終了しました。

1934年(昭和9年)に田村大三先生が神田神保町のすずらん通りで指笛を吹き、街頭デビューされてから今年で84年になります。今年も門下生多数が参加して、盛大に開催されました。

第一部・最初の出演は小林美幸さんでした。曲目は「埴生の宿」と「365日の紙飛行機」です。指笛を吹きつつ、リズムに合わせた動きに感心しました。とても初出演の新人とは思えない素晴らしい出来映えでした。



小林さんの愉快的な演技が楽しくて、客席からはブラボーの声援もあって、沢山の拍手を頂いて華やかな幕開けとなりました。

後続の出演者たちには、会場が和やかな雰囲気包まれた様で、緊張感がほぐされたのではないのでしょうか。

続いての坂本一巳さんも今回が初めての指笛出演です。「月見草の花」と「琵琶湖周航の歌」を上手に演奏されました。これまでに、努力された結果が表れていると感じられました。



次は毎年参加されている藤好清晴さんと藤好真也さんの共演です。今年は

「バラが咲いた」の二重奏です。

お二人の呼吸がぴったり合って見事な演奏でした。

第一部の10番目有賀猛さんの「旅人よ」演奏に小林美幸さんと藤好真也さんが友情出演して、指笛三人コーラスとなり、強く印象に残りました。



プログラムは進み第一部の終わりに片山陽一さんが3曲「雨に唄えば」・「小さな世界」・「小さな空」を続けざまに指笛を吹いたり、傘を使ってタップで踊ったり、歌ったりして軽快なリズムに乗って、しめて下さいました。

休憩後第二部・最初は植松久美子さんの三線演奏です。沖縄民謡等が演奏されるに連れて、大勢が踊り出て登場し、賑やかに“ に一びち さびたん（結婚したよ） あっり かんぱい（そーれ 乾杯） ” “ 指笛最高 あっり かんぱい ” などの掛声をあげました。名古屋から駆けつけて下さった松本京子さんも舞台にあがり、花を添えて下さいました。



プログラム第二部の中頃に、小林信也さんが登場しました。曲目は「叱られて」と「花は咲く」です。心が癒されるような演奏に感心しました。

更にプログラムは進行して竹中速雄さんの「川の流れるように」はパンフルートの吹奏があり、その優しい響きの音色に聴き入りました。



藤好真也さんの「ヤングマン」にはYMCA演技が楽しく見られました。



第二部の終わり近く、塩谷彰宏さんの「かっこうワルツ」も素晴らしい演奏でした。まるで森の中に居るような響きに聞こえてきました。

最終の演奏は杉田隆則さんが「アメージンググレイス」と「見上げてごらん 夜の星を」を指笛演奏して下さり、素晴らしい音色でしめて下さいました。

次は出演者全員が舞台上に集合して合同演奏に進みました。中村会長指揮のもとまずはヴェルディ作曲の「アイダ大行進曲」、次にフレデリック・ロウ作曲の「一晩中踊り明かそう」を全員が一斉に指笛で吹奏しましたので、大きな響きがホールいっぱいに広がり圧巻でした。



客席の大勢の皆様方から沢山の拍手があり、アンコールを頂いて「さんぽ」と「故郷」を全員で指笛演奏しました。更に多くの拍手を頂きつつ盛大に幕を閉じました。

2. 指笛・発表会のプログラム（添付別紙）

有吉 憲行

今回のプログラムは「田村大三 指笛音楽 84 周年記念 **指笛コンサート**」としてこの楽友会通信 75 号に添付同封されています。なお指笛のホームページ yubibue.net/ でもご覧になれます。

3. ジャズの街 ニューオリンズ

青森県 塩谷 彰宏

今年6月、ニューオリンズへ旅をした。アメリカ合衆国は4度目であるが、ニューオリンズは初めてだ。特に私が印象に残った思い出を書いてみる。



○ミシシッピ川クルーズ

数あるニューオリンズ・アトラクションの中でも人気の「ミシシッピ川クルーズ」。

私は、蒸気船『ナッチェス』に乗り込んで、ジャズの生演奏が一番近いところのテーブルに陣取り、ビールを片手にジャズを聞きながら、ゆっくり流れていくランチの時間を楽しんでた。

ジャズの演奏が始まって間もなく、私とジャズの演奏者達との間にあった10m×10mぐらいのフロアーに保育園の年長組ぐらいの子ども達が10人ぐらいやってきて、保育園の先生と一緒に、ジャズの演奏に合わせて踊り始めた。その様子が、なんとも様になっていて、さすがジャズの街という光景であった。



○ニューオリンズ食べ歩きツアー

おいしいものを食べながら、ニューオリンズの名所を回って歩くという企画であった。

集合場所の裁判所の前に指定の時刻に集合したのは、ガイドの他10人の参加者であった。

最初の店は緑の木々に囲まれた中庭にテーブルがある店であった。

その時は、私たちのグループだけだったので、少し食事をしてから、ガイドさんが、自分たちで自己紹介するように言った。私の他7人はアメリカ人で、2人は台湾人だった。その台湾人もアメリカ在住5年だったので英語は堪能だった。みんな英語でショートスピーチをした。最後に私の番になったので「私は、英語はあまりうまく話せません。でも、小鳥たちとコミュニケーションがと

れます」と英語で挨拶した。すると「やってみて」と言われたので、指笛で「ケキョ、ケキョ、ケキョ、ホーホケキョ」とやった。

すると、一人のアメリカ人が立ち上がって「あんた、それで金儲けできるよ」と言ったので、私が「日本で、もう儲けしているよ!」「CDも出しているよ」と言ったら、そのアメリカ人が「一曲やってくれ」と言った。私はあの誰でも知っている「聖者の行進」を指笛で演奏した。みんな驚きながら手拍子をしてくれて盛り上がった。

演奏後、いっぱい拍手をもらって、みんなと一気に仲良くなった。次の店ではコロラドから来たクリスという男の人がビールをおごってくれた。その次の店では、カップルが自分たちの隣に座るように言ったので、隣に座って会話を楽しんだ。

フロリダから来た新婚さんで、「来年日本に行くので東京で会えないか」と聞いてきた。スケジュールが合えば会いましょう」と約束してメール交換をした。そのカップルの夫の方が私にスコッチウイスキーをおごってくれた。

その後もミュージカル・レジェンドパークなどいくつか名所をまわったが、せっかくニューオーリンズにきたのだからと、バーボンなどけっこう強い酒も飲んだためか、どこへ行ったのか、よく覚えていない。ちょっと飲み過ぎた一日であった。



○指笛でストリートミュージシャン

あちこち回って、ルイジアナ州立博物館の前のジャクソンスクエアで「指笛ストリートミュージシャン」をやった。その場所では次々にいろいろなタイプの演奏が展開されるが、指笛の演奏は珍しいらしく、何人かの方が私の演奏に反応して、帽子にお金を入れてくれた。

しばらく演奏していると、30歳ぐらいの白人と黒人の二人組のミュージシャンが、私の次に演奏する準備を終え、私の演奏をじっと聴いてくれた。白人はコラという伝統の弦楽器の演奏者、黒人はボンゴの様な打楽器の演奏者だった。彼らは、毎日、そこで演奏してCDを売っているとのことだった。黒人のボンゴの男性が私の指笛演奏に合わせてリズムをつけた。2・3曲一緒に演奏した。だいぶ集まった客から拍手をもらった。私が自分のCDをあげたら、帰るとき彼らのCDをプレゼントしてくれた。



○プリザベーション・ホール

ニューオリンズといえば音楽の街。そしてジャズの生まれた街。いつも観光客や地元の人でにぎわっているのがフレンチクォーターのど真ん中に位置する、ジャズのコンサート・ホール「プリザベーション・ホール」だ。

ここに行くためにニューオリンズを訪れる世界中のジャズファンも多いと聞く。1750年代に建てられてからずっと続いているそうだが、古くて、そんなに大きくないホールで、座席数も限られているため、開演前から入場を待つ長い列ができる。

ここは他の音楽の聞けるバーと違い、純粹に音楽を聞くところで、飲食物の販売いっさいナシ！椅子もベンチがいくつかあり、ベンチの前の席はじべたに座布団、ベンチの後ろは立ち見だ。

やがて演奏が始まった。全員が黒人でどのプレーヤーも本格派。いぶし銀の雰囲気だ。演奏されるのは主に伝統的なデキシーランド・スタイルのジャズである。

つよめのノリの良いビートにあわせて、トランペットやサクソ、そしてなんといってもクラリネットが入り乱れて演奏するメロディが特徴的だ。譜面台はなしで、自分たちで2～3曲演奏したあとは、客からのリクエストで演奏する。

10ドル紙幣1枚でリクエストできるので、次々にリクエストが続いた。客がリクエストした「聖者の行進」の時は最高に盛り上がった。



その後、バーボン通りでビールを飲みながら、3～4軒、いろんなタイプのジャズの店をはしごした。本場のジャズを満喫した夜であった。

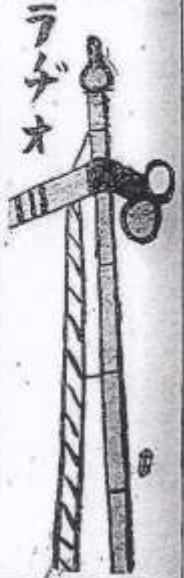
4. 84年前の『都新聞』切抜き

(故田村大三先生の ラヂオ放送 出演記事あり)

有吉 憲行

次頁の新聞切抜は今年8月に、京都市立芸術大学の竹内有一教授がたまたま見つけ、存在を教えて下さったものなのです。なんと、日付は84年前(1934年)昭和九年十二月五日(水曜日)発行のものでした。東京新聞の前身『都新聞』とは驚きです。

1934年、田村大三先生は21歳でした。1934年5月25日に田村先生は神田神保町の「すずらん通り」で指笛の初デビューをなさっていましたので、とても貴重な資料です。



本日のプログラム(第二回五)

- 本日のプログラム(第二回五)
10:00 音楽放送
10:30 新聞放送
11:00 音楽放送
11:30 新聞放送
12:00 音楽放送
12:30 新聞放送
13:00 音楽放送
13:30 新聞放送
14:00 音楽放送
14:30 新聞放送
15:00 音楽放送
15:30 新聞放送
16:00 音楽放送
16:30 新聞放送
17:00 音楽放送
17:30 新聞放送
18:00 音楽放送
18:30 新聞放送
19:00 音楽放送
19:30 新聞放送
20:00 音楽放送
20:30 新聞放送
21:00 音楽放送
21:30 新聞放送
22:00 音楽放送
22:30 新聞放送
23:00 音楽放送
23:30 新聞放送

提琴獨奏 久し振りの

天才少女 諏訪根自子さん

天才少女 諏訪根自子さん
久し振りの提琴獨奏
彼女が演奏するマインの音は、まるで人間の心臓が打つてゐるやうな、生々しい響きがある。...



ヴァイオリン演奏
「上なさい」と呼ぶのである。...

浪花節週間(終)

水戸黄門

水戸黄門
八百万の山々を駆け、時をこらして、海を渡り、...



散歩音楽

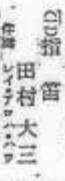
散歩音楽
散歩音楽は、心情的な音楽で、散歩の時に聴くのに最適です。...

賑やかな童謡

賑やかな童謡
賑やかな童謡は、子供たちに人気の音楽です。...

散歩音楽

散歩音楽
散歩音楽は、散歩の時に聴くのに最適な音楽です。...



田村大三
田村大三は、日本の有名な音楽家です。...

5. オーストリア旅行記

(ザルツブルグ、ウィーンを訪ねて)

牛山 宏隆

この度、かねてから憧れていた、ザルツブルグ・ウィーンへと 9 月 21 日 ~ 27 日の 5 泊 7 日の旅行に行ってきました。

私は民間企業を定年退職後、放送大学に入学し、普段は自宅でテレビによる授業を受けたり、埼玉学習センターに行って直接先生方の授業を受けたりしています。学習センターには授業の他いろいろな同好会のサークルがあり、私はその中の合唱サークルに所属し月 2 ~ 3 回活動しています。

この合唱サークルの指揮・指導は茂木一衛先生がされています。横浜国立大学の教授をされていますが放送大学やその他の大学でも教えられており、また毎年年初のウィーンフィル・ニューイヤーコンサートの解説の担当もされています。

この度の旅行も茂木先生が企画・引率されたわけですが、この旅の名称は「ウィーンからパリまでの美の時空を訪ねる旅」でした。私はパリには今までに行ったこともあり、ルーブル美術館もベルサイユ宮殿にも行って見学したことがあるので、私はパリ行きを止めてウィーンに延泊しました。

今回のこの旅の第一の目的はウィーンのペーター教会にてミサ曲を歌うことでした。ペーター教会は 9 世紀創建で現在のものは 18 世紀にバロック様式に建て替えられたものです。歌う曲目はシューベルトの「ドイツミサ曲」とモーツアルトの「アヴェヴェルムコルプス」でした。

合唱団員 45 人が、祭壇を背に並んで、大勢の信者たちの前で歌いました。約 30 分の演奏でした。天井がとても高く、残響がとても快く響き返ってきました。歌っていて感極まってきましたが、歌い終わってとても清々しい気持ちでした。

私はこれまで、モーツアルトの曲を数曲指笛で演奏してきたのですが、そんなことでモーツアルトが活躍したザルツブルグやウィーンは、一度行ってみたいと思い続けてきました。そしてその旅が実現してとても感動的でした。

この旅では、観光に多くの時間を費やしたのですがその多くを記すことは省略するとして、一つだけ忘れ難い思い出は、ウィーンの中央墓地の見学でした。ここにはウィーン音楽の立役者の魂が一堂に眠っています。モーツアルト、ベートーベン、シューベルト、シュトラウス、ブラームスなどの墓碑・記念碑が点在していたのでした。墓地の中のモーツアルトの記念碑の周りで、他に訪ねてくる人もなく、静かで時々小雨の降る中、我々は教会で歌った「アヴェヴェルムコルプス」を再度、ここで歌ったのでした。



6. 事務局からのお知らせ

指笛楽友会 事務局

(1) ご寄付を頂いた方々

今回の発表会に、下記の方々より貴重なご寄付をいただきました。

朝賀慧子 様、 小籠正美 様

いつもご協力、ご支援ありがとうございます。

(2) 総会・新年会のご案内

期日：2019年(平成31年)1月26日(土)

会場：練馬区立 勤労福祉会館 (大泉学園駅南口 徒歩3分)

住所：東京都練馬区東大泉 5-40-36 TEL:03-3923-5511

時間： 9:00-10:30 2階 音楽室にて、楽友会役員会

10:30-12:00 2階 音楽室にて、楽友会総会

12:10-14:00 1階 レストラン「かど36」にて新年会を開催します。

会費：3500円

出欠の連絡及び委任状：楽友会会員は同封のハガキにて出欠を、なお欠席される場合は委任する旨を、中村会長宛てに2019年(平成31年)1月12日(土)迄にお知らせ下さい。

(3) 2018年12月の「25の会」は2018年12月23日(日) 9:00-12:00です。

場所は練馬区立 勤労福祉会館 二階 音楽室です。

(4) 2019年の 指笛音楽 85周年記念 指笛コンサートのご案内

2019年10月12日(土)開場12:30、開演13:00 練馬文化センターで開催されます。

皆様の参加と大勢の方々のご来場をお待ちしています。

(5) 平成30年 秋の叙勲

文化の日に指笛楽友会会員の **竹中速雄 様** が[通産行政事務功労]として**瑞寶雙光章**を拝受されました。誠にめでたうございました。お喜び申し上げます。

** 編集後記 ** (有吉憲行)

この楽友会通信75号は84周年記念指笛発表会の特集号です。今年も指笛コンサートが楽友会会員やボランティアの皆様方、関係各位の一致協力のもと、盛大に無事終了出来たことに感謝します。編集にご協力くださった皆様方にもお礼申し上げます。

塩谷様からはニューオリンズ旅行のこと、牛山様からはオーストリア旅行のことをお知らせいただき有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。